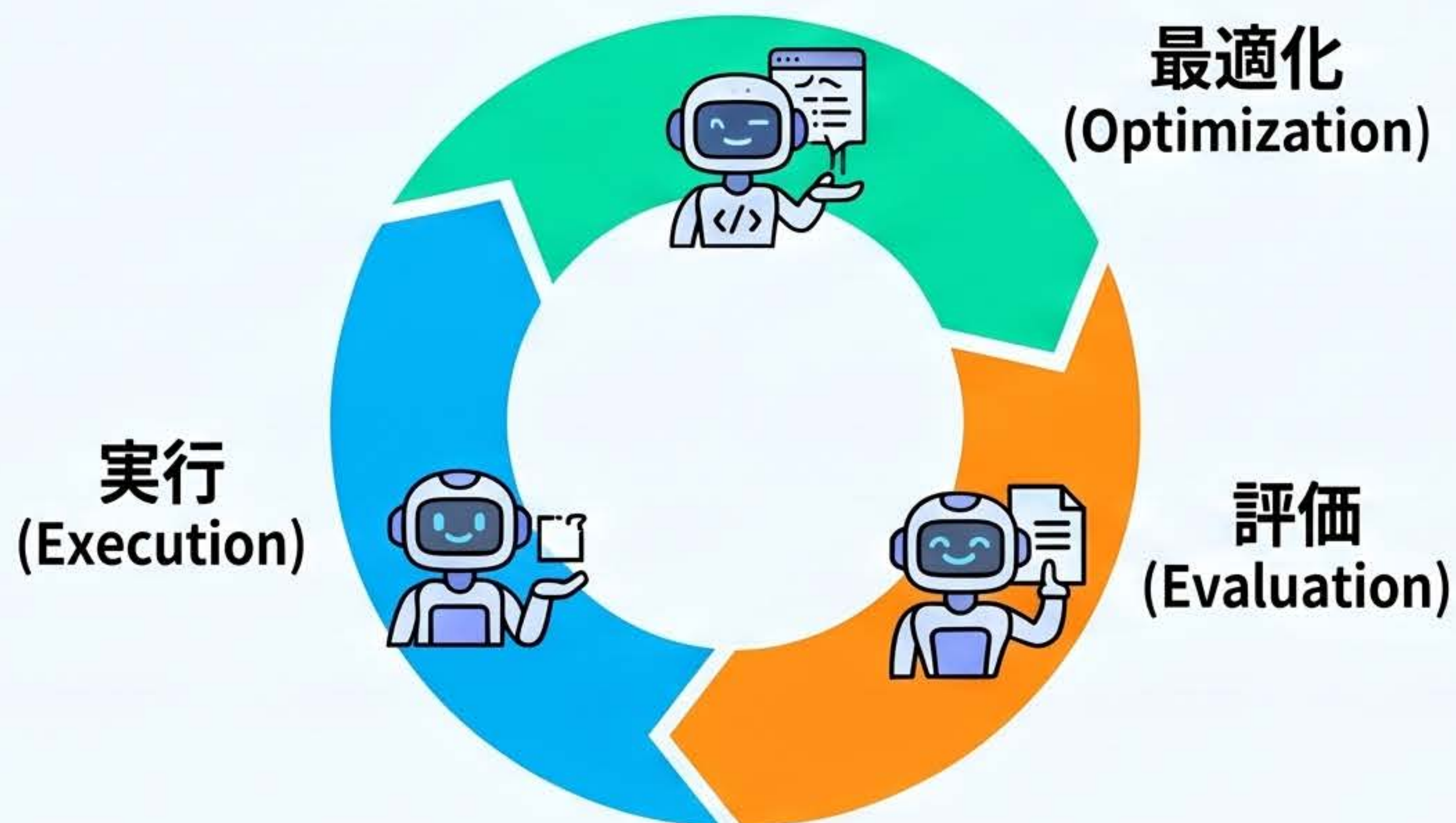


Sakana AI「MASS」の真実：マルチエージェント自己改善技術の検証と影響

Sakana AIとUC Berkeleyが発表した「MASS」は、単一モデルが多角的な役割(実行・最適化・評価)を兼ね、自己監督ループでワークフロー向上を図る研究成果です。研究課題で成果を上げた一方、開発系ベンチマークでの低下や自己評価に伴う盲点などの課題も提示されています。

MASSの仕組みと性能検証

1モデル3役による2重ループ学習



同一モデルのコピーが実行・最適化・評価を担い自律改善する。



研究系課題でスコア**1.2~1.6**倍に向上

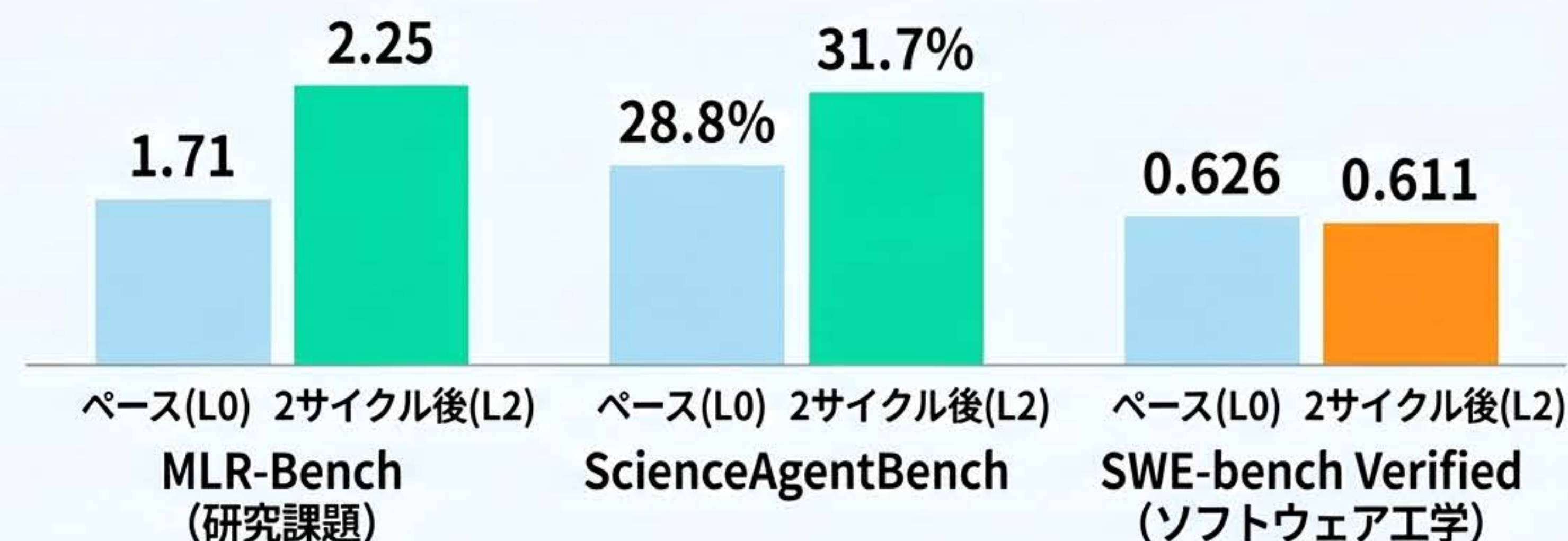
MLR-Bench等で効率化を達成するもSWE系では低下。



合成テスト課題の勝率が最大**69.9%**に向上

2サイクルの自己学習でベースモデルに対する勝率が増加。

主要ベンチマークにおける素点性能の変化



実務・知財への示唆と注意事項



エージェント設計は「契約と順序」の明示が鍵
データ検証などの受け渡し条件(契約)の明示が有効。



自己評価ループにおける「共有された盲点」のリスク
評価者が同じモデルの場合、欠陥が学習強化される懸念がある。



AI開発における「自然人の寄与の寄与」の記録が不可欠
発明者性確保のため、課題設定や評価基準のログを残す。